



明日へつなげる岐阜市の自然

自然ふれあい活動支援ワークショップ

第67号 平成20年12月発行

○はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。

このような状況の中、岐阜市の素晴らしい自然を市民・地域共有の財産として次世代へと引き継ぐため **市民と行政の協働による「自然ふれあい活動」**に取り組みます！！



自然に関する学習会も開催されています

- ・芥見東まちづくり協議会 大洞の里山整備について（11月28日）
- ・生物多様性シンポ 岐阜から生物多様性を考える（12月6日）

○芥見東まちづくり協議会 大洞の里山整備について

11月28日（金）に芥見東まちづくり協議会主催で大洞の自然、保全活動について3名の講師を招いて学習会が開催されました。長年、大洞の自然観察を続けておられる野々目さんから、大洞で見られる貴重な動植物を紹介いただきました。参加者の皆さんも、地元には多くの貴重な生物がいることに驚かされていました。

現在、大洞で調査をしている岐阜大学の肥後先生からは、住民がこれから実施する保全活動の目標設定についてお話がありました。目標を設定する際には、場所によって自然環境が異なることから、地域の特性を把握しながら計画を立てていく必要性を話されました。森と水辺の技術研究会の平田さんからは、これから保全活動に取り組む上での重要なポイントを事例と共に紹介してもらいました。その中で、地域活動は打ち上げ花火のような派手さは無くとも、細くても長く継続できる工夫が重要であることを強調されていました。



芥見東の多くの住民の皆さんが集まって、熱心に耳を傾けておられました。



3人の講師の方から、現在の大洞の自然や岐阜市の環境保全活動についてお話を頂きました。

○生物多様性シンポ 岐阜から生物多様性を考える

12月6日（土）には、岐阜生物多様性研究会と岐阜市の共催で、生物多様性シンポ 岐阜から生物多様性を考えるが開催されました。

基調講演には兵庫県立人と自然の博物館館長の岩槻邦男先生をお招きして「里山は日本人のころ」と題して基調講演を頂きました。里山を通してみる日本人の生活自体が、如何に生物多様性を保つ上で重要な役割を果たしていたのかよくわかる話でした。

基調講演の後は、環境省中部地方環境事務所の常富さんと和歌山大学の中島先生を加え、パネルディスカッションを繰り広げました。その中では、生物多様性を保全するための地域づくりとして、第一次産業のあり方について話し合いが行われました。また、生物多様性を守る活動を実施していく上で、森林、特に里山の持つ『機能と様式』に着目し、人と自然の関わり方の変化を見極め、目的を明確にしないと保全していくことが困難であるという意見も出されました。会場の参加者からも多くの意見が出され、熱い議論が続けられました。

○おわりに

近年、市民・団体の『生物多様性保全』への関心が確実に高まっていることを実感しています。比較的新しい概念で、私達もまだ十分に理解できていないのが現状ですが、今後もこのような機会を設け、皆様一緒に理解を深めていきたいと思ひます。



約 130 名の市民の皆さんが、シンポジウムにお越しになられました。生物多様性に関して、市民の皆さんが徐々に関心を高めているのでしょうか。



岩槻先生の基調講演の後は、環境省中部地方環境事務所の常富さん、和歌山大学の中島先生をパネリストに加え、パネルディスカッションが行われました。



来場者の皆さんからも多くの熱い意見が出されました。



岐阜市自然ふれあい活動に関する問い合わせ

岐阜市 自然共生部 自然環境課 担当：吉村

TEL : 058-265-4141 (内線: 6452) FAX : 058-267-1374

E-mail : shizen@city.gifu.gifu.jp

岐阜市の自然のポータルサイト「ぎふネイチャーネット」:

<http://www.gifu-nature.net/>

自然環境課ホームページ : <http://www.city.gifu.lg.jp/c/12050000/12050000.html>